三原市立本郷小学校　第２学年　道徳科学習指導案
教材名：「くりの　み」

１　日　　時　令和２年 11 月 20 日（金）第５校時（13：00～13：45）
２　場　　所　２年１組教室
３　学　　年　２年１組（男子 15 名，女子 20 名　計 35 名）
４　主 題 名　あたたかい心　Ｂ　親切，思いやり
５　本時のねらい　２つしかない栗の実をきつねに差し出すうさぎの優しさに触れ，自分のことしか考えられなかったことを後悔するきつねの姿から，困っている人を温かい心でいたわり，互いに助け合っていこうとする心情を育てる。
６　教 材 名　「くりの　み」（「小学道徳　生きる力２」日本文教出版）
７　主題設定の理由

（１）主題について

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編では「Ｂ　主として人との関わりに関すること」の（６親切，思いやり）の１・２年生指導内容項目の中で，「身近にいる人に温かい心で接し，親切にすること。」を取り上げている。

よりよい人間関係を築くためには，相手に対する思いやりの心をもち，親切にすることが必要である。自分の考えや利益のみを優先するのではなく，相手の気持ちや置かれている状況を自分のこととして想像し，相手にとってよかれと思う行為を選択する判断力を身につけるとともに，自ら進んで温かい心で親切にしようとする心情を育てたい。

この時期の児童は，家族だけでなく家の周りの人や学校の人々，友達などとの関わりが次第に増えてくる。発達的特質から自分中心の考え方をすることが多いが，様々な人々との関わりの中から相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりしたうえで具体的に親切な行為ができるように指導していくことが大切である。

【内容項目とその系統】

低学年Ｂ－（６）身近にいる人に温かい心で接し，親切にすること。
⇨
中学年Ｂ－（６）相手のことを思いやり，進んで親切にすること。
⇨
高学年Ｂ－（７）誰に対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にすること。
⇨
中学校Ｂ－（６）思いやりの心をもって人と接するとともに，家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し，進んでそれに応え，人間愛の精神を深めること。

（２）児童観

（３）指導観

本資料は，冬のある日，食べ物を探しに出かけたきつねが，たくさんどんぐりを見つけ，腹一杯食べて帰る途中，うさぎに出会い，食べ物がないと嘘をつく。うさぎは食べ物がないきつねを気の毒に思い，やっと見つけた二つのくりのみの一つをきつねに差し出す。うさぎの優しさに触れたきつねが涙を流すという内容である。このように，うさぎの優しさに涙を流すきつねの思いを話し合うことを通して，相手の立場に立って思いやり，困っていたら助け合っていくことの大切さを考えることができる資料である。

指導にあたっては，主体的な学びをしていくために，導入時に誰のどんな心について考えるのか明確にさせる。また，最初に問題提示をすることによって課題発見解決的な見通しを持たせる。

対話的な学びをしていくために，全体で話し合うだけでなく，ペアトークを取り入れて，友達の意見にふれさせる。中心発問においては自己内対話をしながら自分の考えを道徳ノートに書かせる。その後に全体で話し合い，自分や友達の意見に共感したり比べたりできるように板書に整理する。

深い学びをしていくために，きつねがうさぎの優しさに触れ，涙を流した後の場面を想像した役割演技を取り入れる。役割演技によって自分のことばかり考えていたことに気がついたきつねが，自分の行動を後悔して恥じる気持ちやうさぎの親切な行動に感動し，感謝するきつねの気持ちを体験的に実感させる。また，「親切な行為をしたうさぎ」と「親切にされたきつね」の両方の立場の心情を想像させることによって多面的多角的に考えさせていく。中心場面においては，どんぐりを隠したり，食べ物はないと嘘をついたりする自己中心的なきつねを通して，誰もが持つ人間的な弱さにも共感しつつ，温かい心で接し，親切にすることを惜しまない態度のすばらしさについて，自分との関わりを通して考えさせたい。

◎研究テーマとの関係

【研究主題】
「誰もが学ぶ喜びと自信がもてる，主体的・対話的で深い学びの創造」
○主体的な学び
・導入時に道徳的問題にふれ，課題意識をもつ。
・自分自身との関わりでとらえ，考える。
・新たな学びを自覚する。
○対話的な学び
・協働し，対話する学び。
・多面的・多角的に考える。
○深い学び
・教師の指導方法の工夫により，新たな気づきや変容がある。

８　本時の展開

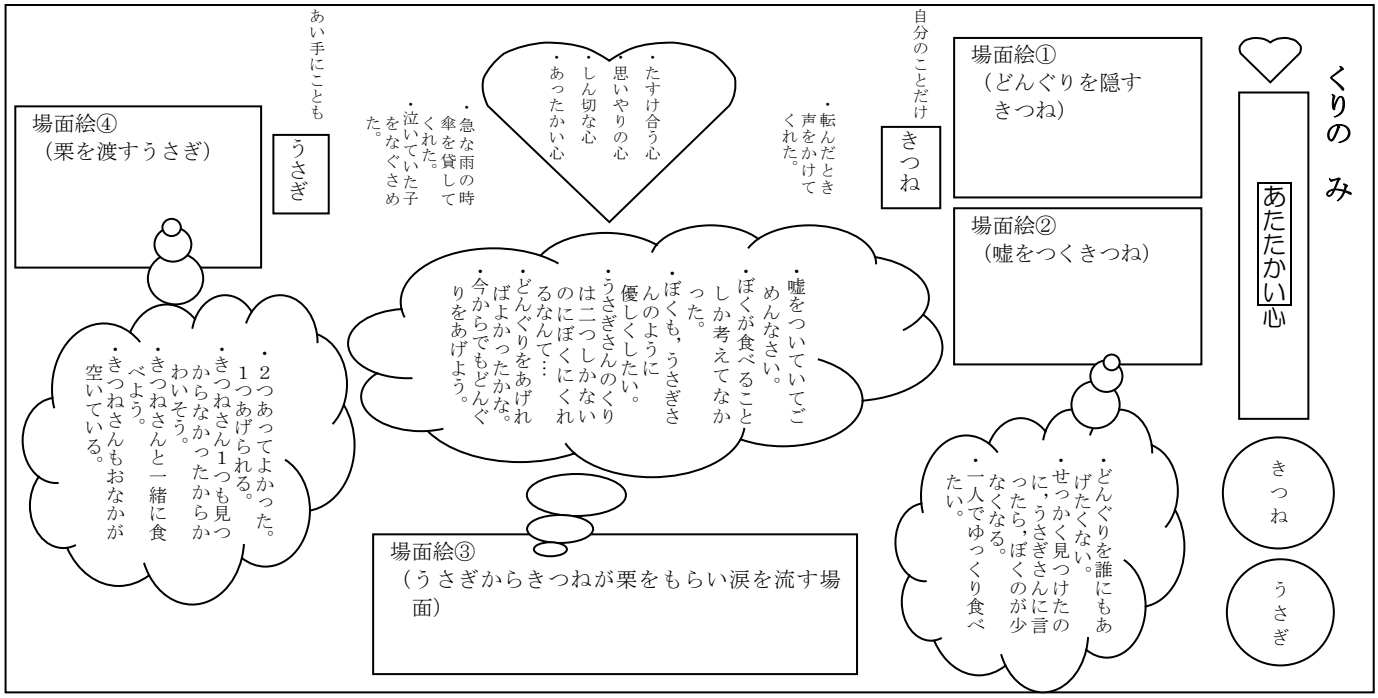
（１）準備物

・場面絵４枚　　・お面（うさぎ・きつね）　　・栗の実（２つ）

（２）学習の展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 （※評価）
導入	１　展開後半への見通しをもつ。	今日は，うさぎさんの中にある心について考えていきます。どんな心か，考えながらお話を聞きましょう。	○お話への意欲を持たせるとともに，誰のどんな心について考えるのか明確にさせる。 ○最初に問題提示をすることによって課題発見解決的な見通しを持たせる。
展開		♡ あたたかい心 森から帰るとちゅうで，うさぎに会ったきつねは，どんな気持ちや考えから，うそをついたのでしょう。	㊟本時の教材で考えさせたい心については虫食いにしておき，焦点化を図り展開後半につなげる。 ㊟資料に登場するきつねとうさぎを紹介してそれぞれの気持ちを考え

	2　教材「くりのみ」を聞いて話し合う。	・どんぐりを誰にもあげたくない。 ・うさぎさんにはどんぐりのことは内緒にしておこう。 ・せっかく見つけたのに，うさぎさんに言ったら，僕のどんぐりが少なくなってしまう。 ・一人でゆっくり食べたい。 きつねの目から涙がこぼれたとき，心の中でどんなことを思っていたでしょう。 ・嘘をついて，ごめんなさい。ぼくが食べることしか考えてなかった。 ・うさぎさんがやっと見つけたくりだから，もらえないよ。 ・うさぎさんは，ぼくが食べるものがないから自分も食べたいのにくれた。 ・ぼくも，うさぎさんのように，優しくしたい。 ・どんぐりをあげればよかったかな。 ・どんぐりをあげよう。 （２つしかない栗の実をうさぎは，どんな気持ちできつねに栗の実を１つ差し出したのでしょう。） ・きつねさん，困っているでしょう。 ・２つあってよかった。１つあげられる。 ・きつねさん１つも見つからなかったから，かわいそう。 ・きつねさんと一緒に食べよう。 ・やっと見つけたけど，きつねさんもおなかが空いてるよね。 きつねさんはこのあとうさぎさんとどんな話をするでしょう。 （きつね） ・あのねうさぎさん，実は僕，嘘をついていたんだ。 ・どんぐりの実は沢山あったんだけど他の人にとられたくなくて葉っぱの中に隠してしまったんだ。 ・うさぎさんも栗を食べたいのに僕にくれてありがとう。 ・２つしかないのに１つを僕にくれるなんてうさぎさんは優しいね。 （うさぎ） ・あら，そうなのね。じゃあどんぐりを食べたならよかった。 ・正直に話してくれてありがとう。 ・また一緒に食べようよ。	ながら聞くことで伝え見通しを持たせる。 ○きつねがどんぐりを隠す場面では，どんぐりを自分のものだけにしたいきつねの気持ちを押さえておく。 ○嘘をついてどんぐりを独り占めしたいというきつねの心の弱さに共感させる。 ㊟道徳ノートに自己内対話をしながら，自分の考えを書かせる。 ○自分のことばかり考えていたことに気がついたきつねが，自分の行動を後悔して恥じる気持ちに共感させる。 ※涙を流したきつねの気持ちを自分ごととして考えることができたか。（ノート 発言 ） ㊟ペアトークを行い，友達の考えにふれる。 ○「しばらく考えた」ことについても，うさぎの心情を深く考える手立てにする。 ㊟苦労して見つけた栗の実をきつねにあげようとするうさぎの気持ちも考えることで多面的多角的に相手のことを考えた温かい心に気づかせたい。 ○主人公の行動を通して，共感的理解を深めていく。 ㊟ペアで台詞を考えさせ，役割演技をさせる。 ○机間指導を行い各児童の考えを把握し，次の指

		（劇をしてどんな気持ちになりましたか。） （劇を見てきつねまたはうさぎは今どんな気持ちだと思いますか。） 今日のうさぎさんの心はどんな心でしたか。	名に役立てる。 ㊥きつねとうさぎの両方の立場から多面的・多角的に考えさせていく。
	3　本時のねらいにつながる心について振り返る	・あったかい心 ・助け合う心 ・親切な心 ・思いやりの心 （助け合う心や親切な心について実際にしたことやされたことがありますか。） ・泣いている１年生をなぐさめてあげた。やってよかった。 ・転んだ時「大丈夫。」と声を掛けた。私も温かい気持ちになった。	○相手を思う心が通じ合ってきつねとうさぎがお互いに温かくなる気持ちを味わわせる。 ○学習を通してうさぎの中にある温かい心について振り返る。 ※親切な行為のよさや難しさについて考えを深めることができたか。（ノート　発表　見取り）
終末	4　教師の説話を聞く。	・教師自身が親切にされたときの思いを話す。 「社会見学の下見に行ったとき，急に雨が降ってきて，雨宿りをしていたら，道の駅（福富）の人が傘を貸してくれた話」	㊥教師自身が親切にされたときの思いを話し，実践への意欲を高める。

９　板書計画